

昨年保護され、復帰が間に合わず越冬させていた夏鳥のオオルリが、6月に無事野生復帰しました。
美しい見た目だけでなく、「日本三鳴鳥」といわれる澄んだ鳴き声はとても魅力的です。

ヒナ（幼鳥）の誤認保護について

みなさんは「誤認保護」という言葉をご存知でしょうか。保護する必要がないはずの動物を保護してしまうことを「誤認保護」といいます。

図1のグラフは、平成28年度に野生生物共生センターで救護した鳥類の月別羽数です。各月で救護された鳥類のうち、ヒナを水色で示しています。

このグラフからわかるとおり、春から夏にかけて、鳥の子育ての時期にはヒナの救護数が多くなります。この時期、人が地面にいるヒナを見つけて、巣から落ちて迷子になっているか弱っていると思い、保護するケースがよく見られます。しかし、これらは実は「誤認保護」であるケースが多いのです。

道ばたや庭・植込みなどにヒナが落ちている場合、それは、①巣立ち前のヒナ、②巣立ち直後のヒナ(巣立ちヒナ)、③ケガをしているヒナ、の3つが考えられます。①巣立ち前のヒナであれば、誤って落ちてしまった場合や生存競争で負けてしまった可能性が高いと考えられます。②巣立ちヒナであれば、飛び練習中であることがほとんどです。単に巣から落ちてしまった場合や、飛び練習中の場合には、親鳥は近くで見守っているかエサを探しに出かけており、ヒナは親鳥からエサをもらい育ててもらえます。しかし、人がヒナの近くにいたり、警戒して姿を現しません。これらの場合に「親鳥に見捨てられた」「かわいそう」といって保護してしまうと親子を引き離すことになってしまいます。

ヒナは生きていくために、親鳥から、エサの取り方、上手な飛び方、外敵からの身の守り方、仲間とコミュニケーションをとる方法などを学ぶ必要があります。人が親鳥に代わって、これらのことを教えて、自然の中で自立していけるように育てることは不可能です。

もし、困難に遭遇しているヒナたちを本当に助けたいと思うのであれば、保護する以外の出来ることを考えてみましょう。

ヒナの中には、自然の中で生存競争に勝てず命を落とす個体もいます。かわいそうにも思えますが、それが自然の流れなのです。自然の中の出来事には、人間があまり関わらないことが必要とときもあります。

最後に、③ケガをしているヒナの場合ですが、出血していたり、翼や足に異常があるなど、保護すべきなのか迷った場合には野生生物共生センター(0243-48-4223)、県庁自然保護課(024-521-7210)、各地方振興局(方部ごとに電話番号が異なりますのでHP等をご参照ください)の鳥獣保護窓口にご相談ください。

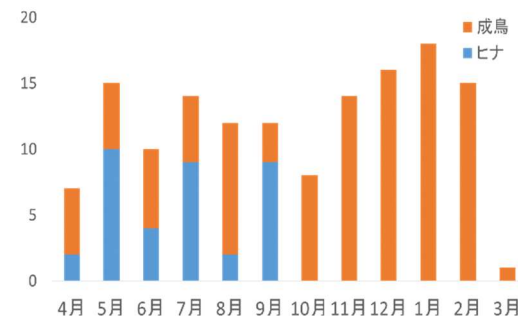


図1 鳥類の月別救護数



- クチバシのまわりの白色や黄色が目立つ
- 羽は生えそろうているが、頭などに産毛が残っている
- 尾羽が短い、生えはじめの羽がある
- 長く飛べない、ジャンプしておちるように飛ぶ

図2 巣立ちヒナの特徴

【クイズのこたえ】

他の地域でも飛来が確認されていますが、宮城県で確認されているのは「日本三鳴鳥」といわれるオオルリです。県内の「アサシノカキの洞窟」はオオルリが産卵する場所として知られており、この時期はオオルリの産卵期です。県内の「アサシノカキの洞窟」はオオルリが産卵する場所として知られており、この時期はオオルリの産卵期です。



【みんなで選ぼう！マスコットキャラクター選挙開催！】

野生生物共生センターでは、もっと親しみを持って頂けるように、野生動物をモチーフにしたマスコットキャラクターをみなさんと一緒に決めたいと思います。
カモシカ、キツネ、タヌキ、ニホンリス、イタチの5種類の中から、ふさわしいと思うキャラクターを選んで投票してください。
選ばれたキャラクターは今後、施設の展示や広報誌、来館記念グッズ(シール、絵はがきなど)に登場する予定です！



- 館内特設コーナーに備え付けの投票用紙に動物の種類(カモシカ、など)を記入の上、ご投票ください。
- キャラクターにふさわしいと思う名前がある場合は、投票用紙に併せてご記入ください。
- 投票期限は平成30年8月31日(金)までです。
- 投票は一人一票までとします。

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。
救護棟、野外訓練場は立入禁止ですが、屋内訓練場にて野生復帰訓練をおこなっている場合は、観察コーナーからその様子をご覧いただけます。
詳しくは..

発行: 福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保67
電話 0243-24-6631
(9:00~17:00 月曜休館日)

「ペットボトルアクアリウム」から生態系について考えよう！

野生生物共生センターでは現在、「ペットボトルアクアリウム」のワークショップを開催しています。このワークショップでは、ペットボトルの中に土や水草、ミジンコを入れて、一つの小さな生態系を作ります。

お子さんの夏休みの自由研究にいかがでしょうか？

自然界では、山、川、海、砂漠など様々な生態系が存在しますが、どの生態系であっても動物や植物、微生物など様々な生き物たちが互いに密接な関わりをもって存在しています。これらの生き物は大きく分けると次の3つに分類されます。



生産者：植物（藻類等を含む）のことを指し、光エネルギーを用いて無機物から有機物の合成、酸素の供給をおこないます。

消費者：生産者が作った有機物を直接又は間接的に食べて消費する動物を指し、植物を直接食べる虫などを一次消費者と呼び、虫を食べる鳥などを二次消費者と呼びます。

分解者：菌類や細菌等の微生物を指し、消費者の死体などの有機物を無機物へ分解する役割をもっています。



これらは互いに食う・食われるの関係にあり、この関係性を**食物連鎖**と呼びます。ペットボトルの中では、水草や藻類が生産者、ミジンコが消費者、土の中の微生物が分解者に該当します。

水草やミジンコなどは枯れてしまったり、死んでしまったりすることもあります。新しい個体が生まれることで個体数がほぼ一定に維持され、ボトル内のバランスが保たれるようになっています。水温や日照量などの外的要因の変化により水草の生育が少し変わってしまっても、それに応じてミジンコや微生物の個体数が変化するのでボトル内のバランスは保たれたままです。

しかし、あまりにも大きな変化があった場合は、変化に対応できずボトル内の生き物がすべて死んでしまうこともあります。自然界でも様々な生態系が森林伐採や土地開発、地球の温暖化などの人の活動の影響によって、バランスを崩してしまうことが増えています。

わたしたちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定など生態系から得られる恵みによって支えられており、生態系のバランスが崩れると今の暮らしを将来的に維持できなくなる可能性があります。

生態系について考えるキッカケとして、ペットボトルアクアリウムを作ってみませんか？

みなさんのお越しをお待ちしております。



土を入れたペットボトルに水草を入れます



ミジンコ入りの水を注ぎます



完成です

展示紹介

ここでは、館内の常設展示についてご紹介します。

まずセンターの駐車場に着くと、たくさんの動物たちがお出迎えしてくれます。福島県内に生息する野生動物たちの等身大パネルです。

ひときわ目を引くのは、大きなツキノワグマ。並んで背比べをして写真を撮ることができます。（シャッター押しますのでスタッフにお声掛け下さい！）

動物たちはまだこれから仲間が増えていく予定です。

併設されている足跡クイズと一緒にぜひ楽しみください。



館内に入ると、たくさんの剥製が展示されています。

こちらは剥製展示としては珍しく、毛並みや羽毛の感触を直接触りながら観察することができます。QRコードを読み取って各動物について調べることができますが、スタッフたち手作りの動物ミニ情報も必見です！



クイズ

クイズ① お子様向け 難易度 ★☆☆

わたしはだ〜れ？



「ブッ、ポウ、ソー（仏法僧）」と鳴くフクロウの仲間だよ！

クイズ② 中・高生向け 難易度 ★★★

どっちがどっち？

イモリとヤモリはよく似ていますが体の仕組みが大きく違います。ニホンイモリは皮膚呼吸、ニホンヤモリは肺呼吸をします。



イモリ



ヤモリ

ニホンヤモリの分類はどっち？

- A. 両生類
- B. 爬虫類

クイズ③ 大人向け 難易度 ★★★

生物多様性クイズ

福島県では希少な鳥であるコアジサシの営巣地を保護するため、いわき市夏井川河口の約12haの区域を指定し、毎年5月1日から8月31日まで、人の立ち入りを制限しています。さて、この区域は福島県の何という条例に基づいて規制されているでしょうか？



（画像：福島県自然保護課 HP より）